

Ready Set Go!

よーい
ドン!

特集

移行教材 『We Can!』を知る

Tips for Activities!

～やってみよう 英語活動～

対談

ティームティーチング, これから



移行教材『We Can!』を知る

平成 29 年 9 月、高学年用の新教材『We Can!』の誌面が明らかになりました。この教材をもって、平成 32 年の「外国語」教科化に備えることとなります。その位置づけと内容について、池田周先生に解説していただきました。（出典：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm）

「外国語活動」「外国語科」新教材の位置づけ

平成 30 年度から 2 年間、新学習指導要領の移行期間が始まります。これに先立ち、新たな教育課程の高学年「外国語科」および中学年「外国語活動」に対応した文部科学省作成の教材、いわゆる「新教材」のうち、『新学習指導要領対応小学校外国語教材 We Can!』が昨年 9 月に公表されました。『We Can!』は 3 年生から「外国語活動」を計 70 単位時間経験してきた児童が移行期間中に活用することを想定したものであると同時に、新学習指導要領における「外国語科」のイメージがもてるよう研修に活用することも期待されています。中学年用の新教材『Let's Try!』も同様に、現行高学年「外国語活動」の単なる前倒しではなく、中学年児童の発達段階や興味・関心を考慮し、高学年「外国語科」へのつながりを意識しながら、平成 30 年 4 月から、年間 35 単位時間使用されるものです。

移行期間の小学校外国語教育では、高学年で新たに年間 15 単位時間を加え 50 単位時間を確保し、現行「外国語活動」の内容に加えて「外国語科」の内容を扱います。教育課程上の位置づけは、これまで通り「外国語活動」です。また中学年では新たに年間 15 単位時間を確保し、「外国語活動」を実施します。そして、新学習指導要領への円滑な移行をおこなうために、全ての小学校において、新課程の「外国語科」「外国語活動」の内容のうち、中学校との接続の観点から必要最低限の内容を指導することが求められています。もちろんこれに加えて、各学校の判断で、より多くの内容を指導することも可能です。

新教材としては「教科書冊子」だけでなく、言語活動の充実が図られるよう「デジタル教材」や「ワークシート」も開発され、「教師用指導書」、「学習指導案」、「年間指導計画例」、「活動例案」なども整えられています。これらは、文部科学省ホームページよりダウンロードできる『小学校外国語活動・外国語科 研修ガイドブック』と併せて研修に使用することで、新課程に向けた授業準備を支援するものと位置づけられています。

新教材の特色

① 子どもの興味・関心に合う題材の設定

英語を用いたコミュニケーションへの積極的な態度の育成につながるように、言語活動で用いる題材として、日常生活の中で児童が興味・関心をもっている話題や出来事などが扱われています。活動に取り組む動機づけが高まるだけでなく、興味・

関心があるからこそ児童が自分自身の気持ちや考えを表現しやすいという利点があります。そのため単元も、児童の日常生活に合わせた配列となっています。

② 場面設定から使われている語句や表現の意味を推測し、語句や表現に出合わせる活動の設定

例えば We Can! ①, Unit 5 では、夏休み明けの運動会を想定して三人称の代名詞を用いた表現 She can run fast. He can jump high. を扱います。



We Can! ①, Unit 5

また We Can! ②, Unit 5 では同じく夏休み明けに担任がクラスの児童に「夏休みにどこに行ったの?」「何が楽しかった?」「何を見たの?」「何を食べたの?」などと過去を表す表現を用いて話しかける状況を英語で再現します。同 Unit 7 でも卒業文集を書き始める時期に、小学校生活を過去形で振り返るような内容となっています。



We Can! ②, Unit 5



We Can! ②, Unit 7

このように児童に身近な場面・状況が設定されていれば、その中で用いられる英語の語句や表現の意味をある程度推測することができ、「I went to ～. は『～に行った』ということを表すんだ!」と気づくようになります。無理に日本語で意味を提示したり個々の語に分解したりすることなく、まとまりとして新出表現を導入することができるのです。

③ 映像資料を視聴して考える活動の設定

新教材には、Let's Watch and Think という、映像に写し出される場面の中で用いられている語句や表現に触れ、それらを取り上げておこなう活動が設定されています。こうした映像教材を用いる活動は、中学年から高学年に進むにつれ、より多く取り入れられています。各単元の最初の 1, 2 ページは見開きとなっており、新しく触れる語句や表現にダイナミックに出合うようになっています。例えば We Can! ①, Unit 1 では、その見開きに日本のスポーツ選手をはじめとする著名人の写真が載っており、画像を見ながらそれぞれの人物を紹介する英文を聞くことができます。



We Can! ①, Unit 1

第 5 学年のはじめでは、語句や表現への親しみがまだ十分ではないことや、速さの面から、聞いた英文を全て理解するのは難しいかもしれません。その時は「音拾い」の形で、聞いた

ことのある語や、聞き取ることできた語を言い合ったりして、何となく「この人については、こんな話だったのか」ということが分かる程度で構いません。いくつか語句や表現を取り上げながら、「英語ではこういう風に表現するんだね」となど、児童とやり取りをしながら、聞いた内容について確認してみてもよいでしょう。児童が「分からない」「難しい」という反応をするかもしれません。その時には、「5 年生が終わる頃には分かるようになるよ」、「小学校を卒業する頃にはもっと分かるようになるよ」、「中学生になれば、こんな風に英語が話せるようになるよ」などと、英語学習への期待を高め目標をもつように促しましょう。同じ映像教材を、年度末や次年度末などに児童の実態に合わせて再度視聴させることによって、「前は分からなかったのに、今は聞き取れるようになったよ」と言う子どもの成長した姿を見ることができるようになるかもしれません。デジタル教材は学年間で共有し、各学年でどのような内容を扱うのかについて教員が共通認識をもっておくことで、既習事項の繰り返しによるスパイラルな指導が可能になります。その他の単元の映像教材には、海外の様子などが多く用いられていますので、児童には、自分たちの暮らす地域や学校、日本の様子と、海外の様子とを比べながら多様性に気づき、世界観を広げていって欲しいと思います。

④ 既習語句や表現を繰り返し活用する活動の設定 対話の続け方を身に付ける活動

『We Can!』の誌面には現れませんが、指導書には Small Talk というコーナーが掲載されています。第 5 学年では教師が英語でプレゼンテーションをおこない、その内容について児童とやり取りをしながら、英語のインプットを与えるかたちです。そして第 6 学年では、教師と ALT、児童の代表などとの対話をモデルにして、児童同士が英語で身近な話題についてやり取りをおこなう設定となっています。授業のはじめに約 1 ～ 2 分程度の対話を、ペアの相手を替えながら 2 回程度おこなう言語活動です。

『小学校外国語活動・外国語科 研修ガイドブック』によると、この Small Talk には「(1) 既習表現を繰り返し使用できる機会を確実に設け定着を図ること」、および「(2) 対話が続けるための基本的な表現の定着を図り、対話の続け方の指導をおこなうこと」の 2 つの目的があります。対話が続けるためには、教師のプレゼンテーションを聞いている児童が、その内容について教師から問い掛けられた時に、これまで学習した語句や表現の中から、自分が伝えたいことを表すものを引き出せるようにする援助が必要です。また「対話の続け方の指導」として、「対話をどのように開始・終了するのか」、「相手の話を聞いてどのような反応を示せばよいのか」、「どうすれば相手の発言をさらに引き出せるか」、さらに「感想を付け加えたり理解を確認したりする」ために必要な表現を導入し、それらを繰り返し用いることで定着を目指す必要があります。実際に児童が興味・関心

をもつことや自分自身の気持ちや考えについて、さらに身のまわりの出来事について英語で楽しみながら伝え合う経験となるよう配慮することが大切です。

ところで、Small Talk や他の言語活動において、児童が伝えたいことを表す英語表現が分からないと質問してくることがあります。それが既習表現である場合には、例えば「宿題をする、って英語で何て言うのかな？」のようにクラス全体に問いかけます。do my homework という表現を思い出せた児童がいればそれを受けとめ、最初に尋ねた児童に「I do my homework. っと言えるかな？」と促します。つまり、一人の児童が思い出せなかった既習表現を、クラス全体の児童にも考えさせ、より良い表現に言い換えられないかなども検討させるのです。こうすれば、相手に理解しやすいように配慮して、目的意識をもって話す能力の育成にもつながります。

Small Talk の実例は、『研修ガイドブック』で各単元について1つずつ紹介されています。音源も文部科学省ホームページや、We Can! 教師用指導書にあるQRコードを利用して入手することができます。

⑤ 言いたいことが表現できるような学習内容の設定

②で述べたように、新教材では児童の興味・関心に合う題材について、児童の日常生活の中で身近な出来事と関連づけて場面設定がおこなわれています。それぞれの場面・状況において、児童が言ってみたいであろう内容を、実際に英語で表現するための学習内容が設定されているわけです。

高学年「外国語科」では、文法事項としてではなく、文の扱いとして「三人称の代名詞、過去形、動名詞」などが学習内容に含まれています。例えば、現行「外国語活動」では三人称の代名詞を扱いませんので、インタビュー活動をおこなっても相手から聞き取ったことを「彼」「彼女」として表現することができず、「自分がその人になりきる」形で表現していました。家族の紹介や、自分が憧れる人の紹介をするためには、he や she が必要です。ですが小学校では三人称・単数・現在の -s という動詞変化は扱いません。新教材では、This is my sister. She can play tennis well. She can play the piano well too, but she can't play the guitar. のように、既習の「～することができる／できない」という can / can't を用いた表現に限ることによって、三人称の主語に続く動詞の -s を用いずに「彼」「彼女」のことを表現します。can を用いた文に音声で十分に慣れ親しみ、口を突いて言えるようになってからこそ、述部部分には余計な注意を払うことなく、主語を代名詞に置き換えることができるのです。

また、過去形は、夏休み中に児童が行った場所や見たもの、食べたものを言い合う場面を想定し、これらを表現する不規則変化動詞を主に扱うことになっています。mountain のイラストを見せながら this summer vacation を用いて、ジェスチャーを含めながら I went to the mountain this summer vacation.

と言えば、「この夏休みに～に行った」のだという意味は児童にもぼんやり分かります。同様に、「食べ物」のイラストを見せて I ate ～. と、さらに「見たもの」については I saw ～. のように、ひとまとまりの表現として児童が慣れ親しむまで繰り返し聞かせます。そして児童に「～」の部分の語を選択肢から選んで入れ替えさせたり、事実や自分の気持ちに合わせて「～」を埋めさせてみたりしたいものです。児童はそれまでの単元を通して「～に行く」という意味を I go to ～. という表現で表せることを知っています。だからこそ、「go の過去形が went である」と明示的に現在形と過去形の動詞の対応を示して導入するのではなく、「～に行った」という意味を表したい時は I went to ～. を用い、これは「～に行く」という意味の I go to ～. とは、響きと音が一部異なることに気づかせます。

さらに動名詞について、「自分は～ができるよ！」と I can を用いて表現することを躊躇してしまう児童がいる中で、I'm good at ～ing. を用いて得意なことを伝え合う活動は取り組みやすいかもしれません。動名詞は他にも、I enjoyed ～ing. や I like ～ing. などの表現で現れます。しかし、「動詞に ing が付いたものが動名詞で『～すること』という意味を表す」などという説明も理解も小学校では必要ありません。「耳で気づき、繰り返し発音して、活動の中で実際に使えるようにする」これが小学校特有の新出表現の導入の仕方です。中学校で、それらの表現について明示的なルールを伴い、改めて説明を受けた時に、既に慣れ親しんでいる表現の構造に関心が芽生え、より認知的発達段階の高い中学生としての学び方に適した指導となることが期待されます。

⑥ 細かなステップを踏んだ、読む・書く活動の設定

文字については、小学校卒業時までには、①文字の読み方（名称）が発音されるのを聞いて、どの文字かを識別できるようにする、②文字を見て読み方（名称）を発音することができるようにする、および③④ 3 線上に大文字と小文字の活字体を正確に書くことができるようにする、の3点については定着を目指します。

高学年で外国語が教科化されたことにより増加した時間数は、「読むこと」「書くこと」の領域を含めて、体系立った指導をおこなうためのものです。新教材では、「読むこと」「書くこと」を扱う活動として、Let's Read and Write, Let's Read and Watch, Sounds and Letters といった活動が設定されています。いずれの活動も、「聞くこと」「話すこと」の領域の活動を通して、音声で十分に慣れ親しんでから取り組むことに留意します。

⑦ ゆっくり文字を読んだり書いたりする活動の設定

「書くこと」の領域では、文字もまとまりのある表現も、最初は線をなぞることから始めます。そして毎時間十分に聞いたり話したりした表現について、例を見ながら書く、すなわち書き

写す活動に移ります。このように小学校段階では、聞いたり話したりしたことのない文を、構文に当てはめて産出することまでは求められていません。高学年では1単元8時間で指導計画が組んでありますが、通常7時間目辺りに、これまで少しずつ書けるようになってきた表現をまとめ、複数の文を書いたり読んだりする活動が含まれています。これは一見高度な活動に思われますが、毎時間少しずつ、音声で慣れ親しんで書き写したものが集められているものですので、発音を思い出しながらかき写すことができ、音声化できれば意味も理解できる、という仕組みです。

⑧ 読んだり書いたりする必然性のある活動の設定

「書くこと」の領域では、例えば、I can play soccer. という文を書き写す活動において、本当はサッカーがうまくできないと感じている児童は、自分の気持ちとは異なる内容を書くこととなります。これは「自分が伝えたい内容」を、目的意識をもって書いているとは言えません。そこで段階的に、I can play の空欄に、ワードリストから自分が伝えたいことに合う語をイラストの助けを借りて選び、その綴りを書き写すといった活動に発展させます。

また「読むこと」の領域については、児童が「読みたくなるもの」として絵本が活用されています。中学年新教材では絵本の単元、高学年では各単元に STORY TIME という絵本のページが含まれています。これらは児童がその読み聞かせを聞きながら、「自分も絵本の登場人物のように英語をもっと聞いたり話したりしたい」という気持ちを膨らませることを期待するものです。第6学年の STORY TIME の英文は、韻のリズムを感じられるようになっています。



STORY TIME

絵本の指導はまず指導者による読み聞かせをおこないます。はじめのうちは児童は文字を見ながら聞きますが、次第に自分でも少しずつ音と文字の対応の知識やイラストを活用しながら読めるようになることが期待されます。

新教材の活用

移行期間に高学年では現行「外国語活動」の位置づけで授業をおこなうため、先行実施として『We Can!』を中心に使用する一部の学校を除き、現行学習指導要領に対応した教材『Hi, friends!』と新教材『We Can!』を組み合わせる学習内容を設定します。平成30年度の高学年は、いずれも中学年で年間35単位時間、計70単位時間の外国語活動を経験していないため、文字の読み方（名称）を聞いて形を識別する活動や、中学年から高学年にかけて繰り返し扱われる語句や表現などを補いながら、新課程を意識した内容を扱っていかねばなりません。

新学習指導要領で新たに導入される「読むこと」「書くこと」の領域では、中学校から「活字体の大文字、小文字」を「読むこと」「書くこと」が、小学校「外国語科」へと移ります。これを踏まえて移行期間の高学年では、「文字を見て読み方を発音する」、そして「活字体で4線の上に正確に書く」活動を経験させておきたいものです。『Hi, friends!』では第5学年で大文字、第6学年で小文字に出会う単元がありますので、それ以降、文字の読み方を聞いて形を識別する活動を、定着を意識しながら継続しておこなうようにします。そして、『We Can!』のワークシートやデジタル教材を活用し、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現について、例を見ながら書き写したり、書いたものを発音したりする活動を取り入れていきます。

新教材には「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」5つの領域について、それぞれ充実した言語活動が組み込まれています。実際の使用においては、誌面化されている活動だけではなく、指導案に掲載されている Small Talk などの活動を包括的におこなってこそ、そのねらいが達成されます。また「教師用指導書」には、単元のはじめに見開きで「単元目標」「言語材料」「学習内容」「指導の流れ」がまとめられたページがあります。これは教科としての指導を適切におこなえるようにするための手立てです。

また、各学年の冊子の最後には、英語を使って「どのようなことがしたいか」「どのようなことができるようになったか」を児童が記入するコーナーがあります。英語学習において、自らの学びを振り返ることを通して、児童に主体的に学ぶ力をつけさせるためにも、大切にしたい活動です。これらを十分に活用しながら、新教材を用いた指導を効果的にこなしていきたいものです。



池田 周(いけだ・ちか)

愛知県立大学外国語学部准教授。英国ウォーリック大学博士課程修了。博士（英語教育・応用言語学）。外国語としての英語リテラシー指導のあり方、および外国語科と外国語科の連携に関心をもつ。

Tips for Activities!

やってみよう
英語活動

“Raise your right hand.” など、体の動作を含んだ表現を使うゲームです。
学年を問わないゲームで、慣れ親しませたい英語表現を楽しく学ばせましょう。

“Simon says”

はじめに—“Simon says”とは

“Simon says”は昔からある定番のゲームです。大勢の中でひとりが「サイモン」（船長さんの名前）の役になり、“Simon says,”の後に指示を出し、ほかの人はその指示に従います。“Simon says,”が頭につかない指示には従ってはいけません。何度かやっている間に“Simon says,”を言わないときがあり、それに引かなかった人が「負け」です。

このゲームは、慣れ親しませたい英語表現を体の動作と連動させながら体験的に学べる活動です。私の場合、① クラスルーム・イングリッシュ、② 体の部位、③ 一般動詞、④ I can ～. 等の表現をターゲットにおこなっています。学年問わずに楽しめ、授業のウォーミングアップにも使えます。

手順

このゲームは、大がかりな準備不要でだれでもおこなえます。

① “Simon says, ‘○○’.” の指示出し

指導者は、‘○○’部分に児童に慣れ親しませたい表現を入れ、児童に指示を出します。

ALT が指示を出す場合は、担任の先生は ALT の指示に従って動いたり、指示通り動いている児童を “Good!” や “OK!” など賞賛したりしながら、児童が英語の音声と動作とのつながり（意味）を理解できるようにしていきます。



Teacher Talk

◎ “Simon says, ‘○○’.” 「サイモンが『○○』と言う」
says の発音は [séiz] です。

◎ Listen carefully. 「注意して聞いて」
新しい表現や会話を注意深く聞いてほしいときに使えます。

◎ クラスルーム・イングリッシュの例
“Stand up.” “Open your textbook to page 14.” “Be quiet.” “Sit down.” “Raise your right [left] hand.” など

◎ 体の部位の例（使用表現：Touch your ～.）
nose, ears, elbow, knee, neck, foot, mouth など

◎ 一般動詞の例
run, jump, walk, sleep, wake up など

◎ “You can ～.” の表現の例
Simon says, “you can play tennis [you can do karate / you can jump high / you can play shogi].” など

② ‘○○’ だけの指示出し

慣れてきたところで、今度は “Simon says,” のフレーズをつけず、‘Stand up.’ のように、‘○○’の部分だけの指示を出します。この場合、児童は指示に従ってはいけません。

最初は、児童は “Simon says,” のフレーズがついていなくても、動作をおこなってしまいます。担任の先生は “No.” などと言って、このときは指示に従ってはいけないことを伝えます。児童は「なんでだめなの？」と困惑するかもしれませんが、“Listen carefully.” と言って、違いに気づくことができるようにながらみましょう。

③ 1と2 をランダムに繰り返す

担任の先生や ALT も一緒に動作をおこない、児童に “Simon says, ‘○○’.” のときは指示通りに動いて、“Simon says,” と言っていないときは動かないのか！と気づかせます。

だんだんとクラス全員がルールを理解していきます。ルールに気づいて指示に従っている児童を “Good!” や “Great!” と大げさに褒めることが、理解を早めるコツです。

【バリエーションで飽きさせない工夫】

だれが指示を出すかでバリエーションが増えます。以下に例を示します。

- ・担任の先生または ALT が指示を出す。
- ・代表児童が指示を出す。
- ・児童が2人1組でおこなう。

活動に慣れてきたら、指示を出すスピードに緩急をつけたり、指示を出す形態を変えたりし、飽きさせない工夫をします。

おわりに

“Simon says” は大人でも間違えることがありますが、単純で楽しいゲームです。児童と一緒に楽しみながら取り組んでみてはいかがでしょうか。教師自身が楽しみながら取り組むことで教師も児童も失敗を楽しめる雰囲気を作ることができます。高学年では懐かしく、低学年にとっては新鮮で体を動かす楽しい活動です。授業の開始や終わりなど、いつでもどこでもすぐできる点が、私がこの活動を気に入っているところです。

齋藤 一紀（さいとう かずき）

教職 12 年目。伊勢崎市立赤堀小学校、同四ツ葉学園中等教育学校勤務を経て、現在同宮郷小学校 6 年担任。



チームティーチング,これから

対談

みょうじょう

明星学園小学校で英語を教えらっしゃる入江先生(以下,入)とブレイン先生(以下,Bl)に「チームティーチング(以下,TT)を成功させる秘訣」をうかがいました。

小学校英語でのTT歴22年の入江先生と英語教師歴17年のブレイン先生の、息の合ったやりとりをお楽しみください。

秘訣① ここから始めよう、楽しいTT!

入 「TTって大変！」って言われることが多いんだけど、実際は「二人だから楽しいし、安心！」って思わない?

Bl そうそう。相手から教え方も学べるし。子どもをより深く知ることができるようになるし。

入 TTが「大変！」じゃなくて「楽しい! 安心!」って思えるようになるために、ぼくがずっと大切にしていたことがふたつあるんだよね。

Bl ひとつは「授業後のチャット」でしょ? 最初のころ、授業前の打ち合わせはほとんどしてなかったよね。その日の「授業のねらい」と「授業中のお互いの役割」を確認するくらいだった。

入 そう。TTって、お互いの「尊重」と「信頼」で成り立つものでしょ。最初から、どちらかが「あなたの考えは間違ってる!」って言ったらおしまいだね。まずは「授業」という共同作業を自由にやってみる。その上で、お互いが考えを伝え合うことが重要なんだと思う。共同作業の後だったら「あの時のあの子って、〇〇な気持ちだったんだろうね」とか「あの時、〇〇な活動が必要だったよね」って楽しく話せるでしょ。授業中に見た「子どもの姿」について話すのは、お互いの教育観を共有するためにも最高の方法だしね。

Bl そうだね。「子どもの姿」を通してだと、相手の考えや意見を素直に受け止められる気がする。しかも、具体的な話ができるから、英語があまり得意ではない先生とでも分かり合えるよね。

入 大切にしていることのふたつめは、「授業中にお互いが遠慮しない」ってこと。お互いが相手に遠慮して「一歩引いた」感じで授業してたら、TTの醍醐味は出ないでしょ。そもそも、TTの価値は、子どもたちに二人がコミュニケーションする姿を見せることなんだし。

Bl そうそう。二人がコミュニケーションを楽しまないよね。結果的に、英語を間違えたり、アプローチに失敗したとしても。子どもたちにコミュニケーションを楽

しんでほしければ「子どもに求める前に大人が楽しまなきゃ」と思う。

入 そう。それに、二人いるから、一方の教師が見えないことにもう一方の教師が気づくことも多いでしょ。「必要!」と思ったり、いいアイデアが浮かんだりしたら、相手が活動をリードしている場面であっても遠慮せずに伝え合えるといいよね。

Bl 確かに、自分ひとりで授業をしていても、全体が見えていないことは多いもんね。「今、子どもたちに伝わってなさそうだよ。」とか、気付いたらその時に教えてほしい。その時が無理ならもちろん授業後にでもいいけど。それぞれが「必要」と思ったことをどんどん表現していきたいね。そうやってお互いが分かり合っていく。

入 そう。お互いに完璧な人間じゃないんだし、担任でもALTでもそれぞれやりたいことがあるんだから、一度表現し合ってみてお互いにフィードバックすればいいと思う。「一緒に作っていく」ってそういうことだなと思うよ。

秘訣②へ、つづく



Cameron Blain

(きやめろん・ぶれいん)

みょうじょう
明星学園小学校英語教師。カナダ出身。2000年来日、民間の英会話教室の子ども向けコースで英語教師としてのキャリアをスタートした。公立小・中学校での英語教師を経て現職。シンガーとしての顔ももつ。

入江 潤

(いりえ・じゅん)

みょうじょう
明星学園小学校6年生担任。長崎県壱岐市出身。小学校で英語を教えて22年。日本の教育と小学校英語の在り方を追究すべく現場で奮闘している。児童英語教育学会役員、(一財)語学教育研究所研究員、外国語教育メディア学会運営委員。「英検 Jr. マガジン」連載執筆中。



2020年、小学校5・6年で外国語が正式な教科に!!
これからの発信型英語学習に!!

KIDS CROWN



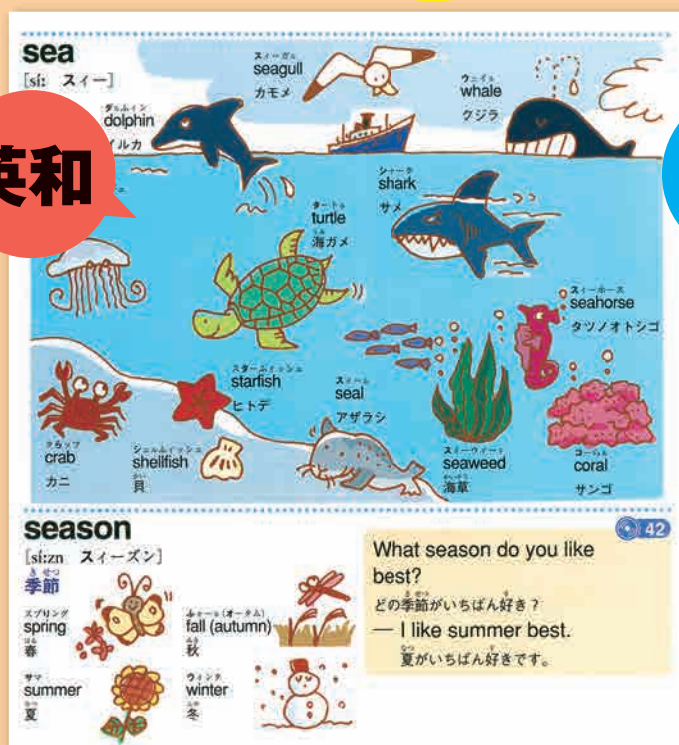
SANSEIDO'S
ENGLISH-JAPANESE
JAPANESE-ENGLISH
DICTIONARY

下薫・三省堂編修所 [編]

新装版

- ★ 小学校での学習を十分にカバー
- ★ 日常的な英語表現を多数紹介
- ★ 英語をたっぷり聞ける音声CD付き

英和



「キッズクラウン英和辞典」縮小見本ページ

和英



「キッズクラウン和英辞典」縮小見本ページ



オールカラー

キッズクラウン英和辞典 新装版

A5判 304頁 2,052円(税込) ISBN 978-4-385-10547-5

キッズクラウン和英辞典 新装版

A5判 288頁 2,052円(税込) ISBN 978-4-385-10477-5

キッズクラウン英和・和英辞典 新装版

A5判 568頁 3,672円(税込) ISBN 978-4-385-10473-7

三省堂教科書・教材サイト <http://tb.sanseido.co.jp>

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)

- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 TEL (06) 6341-2177
- 名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-21-31 協和丸の内ビル 2F TEL (052) 953-9211
- 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL (092) 531-1531
- 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F TEL (011) 616-8722